

| | |
|-----|-----|
| 区 分 | 課 程 |
|-----|-----|

論 文 の 和 文 要 旨

博士論文の題目：競技スポーツにおける心理社会的スキルの般化の特徴と要因

学 籍 番 号：219D05

氏 名：藪中 佑樹

指 導 教 員：土屋 裕睦

本研究の目的は、競技スポーツを通じたライフスキル（Life Skills, 以下「LS」と略す）獲得プロセスにおける、心理社会的スキル（Psychosocial Skills used in Competitive Sports, 以下「PS-CS」と略す）の般化に着目し、大学生アスリートを対象とした LS 獲得のための教育支援に有益な情報となる基礎的な知見を定量的アプローチにより得ることを目的とした。本研究の目的を達成するために、4つの研究課題を設定した。以下が各章の概要と主要な結果である。

第Ⅱ章では、PS-CS が般化する具体的な場面や環境を定義し、PS-CS がそれらに般化している程度を評価できる項目を作成し、選定を行った（研究課題1）。まず、PS-CS が般化する場面や環境には学修、進路選択、人間関係、生活の4つを定義した。そして、PS-CS がそれらに般化している程度を評価できる項目を作成するために、先に定義づけた4つの場面や環境を想定して、アスリートに求められるLS（島本ほか, 2013）の枠組みに基づき項目を作成した。作成した項目を使用し、大学生アスリート262名（男子：162名、女子：100名）を対象に調査し、アスリートに求められるLSの10側面ごとに4項目ずつ、合計40項目を選定した。

第Ⅲ章では、大学生アスリート391名（男子：234名、女子：154名、その他：3名）を対象に、第Ⅱ章で選定した項目を使用し、PS-CS が般化している程度を評価する尺度の信頼性と妥当性を検討した（研究課題2）。そして、本尺度を用いて、性別や競技種目、学年による差や、競技スポーツ場面で取り組む課題と競技スポーツ以外の場面で取り組む課題間の類似性や、PS-CS が競技スポーツ以外の場面に般化する可能性への気づきとの関連から、PS-CS の般化の特徴を検討した（研究課題3）。その結果、本尺度はアスリートに求められるLSと対応する構造である10因子30項目で構成され、一定水準の信頼性と妥当性が確認された。そして、PS-CS が、学修、進路選択、人間関係、生活といった場面や環境へ般化している程度を測定することができる本尺度を、大学生アスリート用競技スポーツにおける心理社会的スキルの般化尺度と命名した。PS-CS の般化の特徴について、性別による違いでは、男性が女性よりも「目標設定」の得点が高く、女性が男性よりも「感謝する心」と「礼儀・マナー」の得点が高い傾向であった。学年による違いでは、1, 2年生は3年生よりも「ストレスマネジメント」の得点が高い傾向であった。種目による違いでは、本尺度の全ての下位因子

において関連が認められなかった。本尺度の全ての下位尺度において、課題間の類似性と般化の可能性への気づきの程度との間に関連が見られた。すなわち、PS-CSの般化の特徴は、大学生アスリート用競技スポーツにおける心理社会的スキルの般化尺度の一部の側面において性別、学年が関連し、全ての側面において課題間の類似性と般化の可能性への気づきが関連することが明らかとなった。一方で、競技種目はPS-CSの般化と関連しないことが明らかとなった。

第IV章では、大学生アスリート 228名（男子：163名，女子：65名）を対象に、指導者からの欲求支援・阻害行動と基本的心理欲求の充足（Basic Needs Satisfaction, 以下「BNS」と略す）や不満（Basic Needs Frustration, 以下「BNF」と略す）がPS-CSの般化に及ぼす影響を明らかにし、PS-CSの般化の要因を検討した（研究課題4）。その結果、「欲求支援行動」が「BNS」, 「BNS」がPS-CSの般化の10側面全てに正の影響を及ぼしていた。そして、「欲求阻害行動」が「BNF」に正の影響を及ぼし、「BNF」がPS-CSの般化の「ストレスマネジメント」, 「感謝する心」, 「コミュニケーション」, 「礼儀・マナー」に負の影響を及ぼしていた。すなわち、PS-CSの般化の要因について、全ての側面に関して競技スポーツにおけるBNSが促進し、一部の円滑な人間関係を築くことに関連するスキルの般化に関して競技スポーツにおけるBNFが阻害することが示唆された。また、競技スポーツにおけるBNSには指導者からの欲求支援行動、競技スポーツにおけるBNFには指導者からの欲求阻害行動がそれぞれ要因となることが示唆された。

以上により、本研究全体において以下の結論が得られた。

- 1) 大学生アスリート用競技スポーツにおける心理社会的スキルの般化尺度を作成したことにより、競技スポーツを通じたLS獲得プロセスにおけるPS-CSの般化について、定量的アプローチによる実証研究が可能になった。
- 2) 大学生アスリートにおけるPS-CSの般化の特徴について、一部の側面において性別や学年による差が見られ、全ての側面において課題間の類似性と般化の可能性への気づきの程度と関連していた。
- 3) 大学生アスリートにおけるPS-CSの般化の要因について、全ての側面に関して競技スポーツにおけるBNSが促進し、一部の円滑な人間関係を築くことに関連するスキルの般化に関して競技スポーツにおけるBNFが阻害することが示唆された。また、競技スポーツにおけるBNSには指導者からの欲求支援行動、競技スポーツにおけるBNFには指導者からの欲求阻害行動がそれぞれ要因となることが示唆された。

本研究の結果から、大学生アスリートを調査対象にして、PS-CSの般化の特徴や要因を定量的アプローチで明らかにしたことに基づく、競技スポーツを通じたLS獲得のプロセスの一端を実証することができたと考えられる。これらの結果は、大学生アスリートを対象とした、競技スポーツを通じたLS獲得のための教育支援に有益な情報を示唆しているだろう。

(2000字程度)